

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	プロジェクト目標である「第5州バンケ郡において、コミュニティ、郡行政、および中央政府の保健システム強化及びインフラ整備を行う。」達成のため、以下の4つの分野について包括的に貢献した。 1. 保健施設の整備及び医療資機材の提供 2. 保健サービス提供者の能力向上 3. 保健医療施設の運営能力向上 4. 住民の新生児・小児保健知識の向上 郡内2か所のヘルスポスト併設の分娩関連施設を修繕し、48か所の公立保健医療施設に医療資機材を提供することで、インフラを整備した。 保健省の定めるコミュニティベース新生児・小児疾病総合管理（以下CB-IMNCI）に基づいた指導要綱に沿い、公立保健医療従事者342名、女性地域保健ボランティア（FCHV）364名、民間保健医療従事者15名に対し、研修を実施した。 保健医療施設の維持管理やCB-IMNCIに関わる医薬品の供給が円滑に行われるよう、人的資源と管理能力を高めるためのワークショップおよび研修を、326名の保健医療施設運営管理委員会メンバーや州管轄保健事務所と市町村保健部門の監督者、在庫管理者らを対象に実施した。 新生児・小児保健に関する意識・知識向上のため、CB-IMNCIガイドラインやハンドブック、啓発ポスター、バナー、パンフレットを計5700部印刷した。また、ラジオを通して2019年7月～2020年2月末の期間に、新生児・小児保健関連メッセージを毎日4回放送した。 これらの活動により、郡内の新生児・小児保健環境の改善に繋がる土台が作り上げた。2年次以降は、さらにコミュニティレベルでの新生児・小児保健に関する知識普及や技術向上を推進していく。
(2) 事業内容	ネパール連邦民主共和国の行政区画が変更となって以降、保健システム上の役割・機能の移行が徐々に進められていた。事業開始前の2018年12月にはバンケ郡の郡保健事務所が解体され、市町村がヘルスポストやプライマリーヘルスケアセンターを監督指導するようになった。州政府は州管轄保健事務所をバンケ郡に置き、郡保健事務所の役割を部分的に引き継いだ。ベリ州病院は、保健省の管轄下に置かれている。よって本事業では、現行のバンケ郡での保健システムに照らし合わせ、各活動の対象者や参加者人数について関係者と調整を行った。 1. 保健施設の整備及び医療資機材の提供 1-1 保健施設の修繕 本年度はラプティソナリ村にある2か所のヘルスポスト（カチャプール・ヘルスポストおよびカシュクシュマ・ヘルスポスト）併設の分娩関連施設を修繕した。 全国紙に掲載した建設業者募集広告による入札を通し、バンケ郡に拠点を置く建設業者が選定された。地元行政と保健医療施設スタッフと調整を重ね、エンジニア及び現場監督が監督指導を行いながら2019年12月から建設作業が始まった。2020年2月にヘルスポストの建設作業を完了し、（新行政区画以降にヘルスポストの維持管理を負うこととなった）ラプティソナリ村へ引き渡された。引渡し式典には、清水

一等書記官の出席があった。ラプティソナリ村長からは引渡し式典にて「今後は私たちが役割を引き継ぎ、地元住民と協力して施設を維持管理していく。必要な予算を割り当てられるよう努力する。」との意思表示がされた。

1-2 医療資機材の提供

バンケ郡内の44か所のヘルスポストおよび3か所のプライマリーヘルスケアセンター、1か所の州病院に、政府基準に則って新生児・小児保健医療サービスに必要な医療資機材を配布した。

州病院においては事業期間中に医療資機材に関する状況の変化があり、現地ニーズにより適した支援を提供できるよう変更申請にて対応した。州病院が三次救急病院としての役割を果たすための支援を、来年度以降も続けていく必要がある。

全国紙に掲載した業者募集広告による入札を通し、カトマンズの本社とバンケ郡に支社を置く業者が選定された。医療資機材は、各保健医療施設を管轄する市町村長へ引き渡された。プライマリーヘルスケアセンターや州病院スタッフに対し、業者により医療資機材の使用方法和維持管理方法の指導が行われた。

中国での新型コロナウイルス流行の影響により、中国製品の輸入手続きが一時止まることがあり、事業期間を15日間延長して対応した。

2. 保健サービス提供者の能力向上

2-1 保健医療従事者の指導者研修

ネパールの新年度開始後の7~11月にかけて全国的な保健医療施設間の人事異動があり、バンケ郡内に留まることが確かな保健医療従事者や、新たに郡内に異動した者へ順次研修を行った。本年度は①マスターレベル指導者研修を11名が受講し、保健省家庭福祉局より②指導者研修の講師となる資格が与えられた。さらに計13組の6日間の②指導者研修を開催し、郡内の保健医療従事者296名が州管轄保健事務所より修了証が与えられた。

7日間の①マスターレベル指導者研修には、プライマリーヘルスケアセンターやヘルスポスト、市町村保健部門、州管轄保健事務所、第5州保健局に所属する医師や看護師、公衆衛生責任者が参加した。保健医療従事者免許を所持する一部の本事業スタッフも①マスターレベル指導者研修を受講し、今後の研修やワークショップの講師を部分的に担うことが可能となった。6日間の②指導者研修には、郡内のプライマリーヘルスケアセンターやヘルスポスト、市町村保健部門に勤務する公衆衛生責任者や准医師、准看護・助産師が参加した。参加者はCB-IMNCIに沿った教材や定められたフローチャートを使用し、小児5大疾病（低栄養、麻疹、マラリア、肺炎、下痢症）の症状や診断、治療、予防について学んだ。また、適切な手洗い方法から新生児蘇生法、新生児必須ケア、カンガルーケアに至るまで、講義やディスカッション、演習を通して学んだ。それに加え、①マスターレベル指導者へは、保健医療従事者への指導方法やプレゼンテーションスキルに関する研修をも行われた。

2-2 公的保健医療サービス提供者への技術支援

a. 女性地域保健ボランティア（FCHV）への研修

活動2-1 指導者研修を受講した保健医療従事者らが講師となり、本年度は郡内4か所の市町村にて登録された364名のFCHVが、CB-IMNCI指導要綱に沿った研修を受けた。

読み書き能力に課題のあるFCHVも多数おり、CB-IMNCIのフリップチャートを使用した。この教材を使用することにより、FCHVの新生

児・小児保健に関するキャパシティがより向上され、かつFCHVがコミュニティでの母親グループ会合や家庭訪問等において研修で学んだ知識や技術を効果的に広めることができることが可能となる。研修でFCHVらは講義や演習を通し、正しい手洗い方法やカンガルーケア、コミュニティでのカウンセリング、活動記録の書き方等について学んだ。ヘルスポストの保健医療従事者は、FCHVが家庭における新生児・小児ケアを各家庭に向けて教えているかどうか、今後もフォローアップしていく。

来年度は残り4か所の市町村のFCHVへ、技術支援を行う。

b. モニタリングによる保健従事者やFCHVへの技術支援

州管轄保健事務所との調整のもとに選ばれた5つのヘルスポスト（カシュクシュマ、カチャナプール、カトウクイヤ、ベルバール、ラダプール・ヘルスポスト）にて、35名（5～8名×5グループ）の保健医療従事者とFCHVの知識や技術をモニタリングした。

活動2-1①マスターレベル指導者研修の受講者が保健省の定める基準とチェックリストを用い、ヘルスポストの保健医療従事者とFCHVへそれぞれ質問調査、モデルを使用した手技確認、保健医療サービス提供記録（カルテや保健医療統計データなど）を各2回モニタリングした。1回目の訪問では、一部の適切ではない手技や記録について指導を行い、不足していた知識や技術をフォローアップし、アクションプランを作成した。2回目の訪問ではアクションプランをもとに、知識や技術が改善されているか確認した。5か所全てのヘルスポストにおいて、前回指摘のあった手技や記録の不備について改善がみられた。ヘルスポストにはCB-IMNCI指導者研修を受けたことのない臨時職員¹もあり、市町村保健部門へそれらの保健医療従事者への研修を手配することを依頼してはどうかと、講師らより提案があった。また、ヘルスポストの保健医療従事者らは管轄区域のFCHVの監督責任を有しており、モニタリングに参加できなかったFCHVも含めて、保健サービスの維持・向上を続けていくよう講師らに指導された。なお各ヘルスポストや地域での保健指導や診療業務にあたっており、本事業の2回のモニタリングでは該当ヘルスポストの全ての保健医療従事者やFCHVへの技術支援を実施できなかった者もいた。今後は管轄する市町村保健部門や州管轄保健事務所が、指導にあたることのできなかった者も含め、定期的にモニタリングと監督指導の責任を負う。

2-3 民間保健医療サービス提供者への技術支援

b. 民間医療従事者への研修・ワークショップ

州管轄保健事務所と医薬局、各市町村と調整し、薬局や民間クリニック、私立病院といった民間保健医療施設の従事者15名に対して研修を行った。

研修では、民間セクター従事者にもCB-IMNCIについての理解を深め、各公立保健医療施設でのサービスを周知するため、細菌感染症の診断や治療、低体温症、新生児・小児患児の危険な兆候等について講義とディスカッションが持たれた。加えて、民間保健医療従事者から各々の施設での新生児・小児保健サービス提供状況も共有された。民間保健医療施設からの患者紹介理由としては、呼吸器感染症や細菌感染の可能性のある症例、あるいは発熱や下痢症状の順に多かった。薬局や民間クリニックからの搬送先としてはベリ州病院に次いで郡都に

¹ 本事業では、保健省から予算の割り当てられている正規職員を対象に、活動2-1 保健医療従事者の指導者研修を実施した。各市町村独自の判断で、必要と思われる保健医療施設には臨時職員を市町村予算で雇用している。

ある私立病院が多数であったが、プライマリーヘルスケアセンターに紹介するケースもあった。これらの情報を、研修講師でもあった州管轄保健事務所が把握することはできた。

3. 保健医療施設の運営能力向上

3-1 郡・中央レベルでの管理能力強化

b. 郡レベルでの CB-IMNCI に関する課題解決ワークショップ

あらゆるレベルのバンケ郡内の保健システム関係者が CB-IMNCI 関連サービスの現状について把握するためのワークショップを開催した。計 29 名の参加者は、各市町村保健部門や州管轄保健事務所、ベリ州病院、プライマリーヘルスケアセンター、ヘルスポスト、私立病院といった様々なレベルの代表者から成った。行政区画変更後、ネパール国内の保健医療環境改善のために鍵となる役割を担っていくのは市町村であり、郡内全ての市町村保健部門からの出席者があったことは大きな意義があった。

参加者からは、直近 3 年間の CB-IMNCI 関連保健データが市町村毎に共有されただけでなく、新生児・小児保健分野におけるそれぞれの地域での状況や課題についての経験が話し合われた。それらの議論を通して明らかにされた課題を元に、保健システム内のレベル別にアクションプランが作成された。本事業による 3 年間の支援内容とアクションプランとを突き合わせ、現在の課題解決のために市町村自らが取り組むべきこともその場で書き出して可視化することができた。

3-2 コミュニティから郡レベルの各施設の事務運営部門強化

a. 保健医療施設運営組織の能力向上ワークショップ

本年度は 24 か所の保健医療施設とそのサービスの運営管理を担う、保健医療施設運営管理委員会のメンバー 304 名（10～14 名×24 グループ）を対象にワークショップを開催した。

ワークショップでは講師によるファシリテーションのもと、委員会の役割について再確認した他、CB-IMNCI の保健医療サービスについて理解を深め、各々の担当施設の維持管理状況を委員会メンバー自らが振り返りを行った。それらの振り返り後にアクションプランを作成し、修繕・修理が必要な箇所、不足している資機材、所属する保健医療従事者や FCHV に必要な研修について確認し合った。

b. 郡保健事務所の総務・会計担当の管理能力研修

行政区画変更後に案件申請時にあった郡保健事務所が解体されたことから、州管轄保健事務所と市町村保健部門の監督者や在庫管理者 19 名に対し、医療関連機器の維持・修繕、医療資機材や医薬品のサプライチェーン管理能力を強化するための研修を実施した。

中央レベルからの講師として、保健省マネジメント部門から講師を招聘した。2 日間の講義やワークショップを通し、参加者は医療関連機器の維持・修繕、医療資機材や医薬品のサプライチェーン管理を強化する方法を学んだ。また、医薬品や医療資機材が適切に患者に供給されなかった場合の弊害についても再認識してもらい、小児保健医療分野におけるロジスティックス・システム管理の重要性が強調された。州政府管轄の在庫管理部門での演習も研修に取り入れられ、参加者はコールドチェーン管理方法・記録方法・期限管理方法について学んだ。

4. 住民の新生児・小児保健知識の向上

保健省の定める CB-IMNCI 指導要綱に必要とされるガイドラインやハンドブックを印刷した。また、ラジオ放送や啓発ポスター、バナー、パンフレットを通し、住民の CB-IMNCI サービスを含めた新生児・小

	児保健に関する意識・知識向上のための啓発活動を行った。取り上げるテーマについては、州管轄保健事務所および各市町村保健部門と協議の上で決定した。 4-2 大衆への啓発活動 CB-IMNCI のガイドラインやハンドブック等を 2200 部印刷し、活動 2 および活動 3 の研修やワークショップで使用した。 ネパールの農村部での主要メディアであり非常に人気がある FM ラジオにて、新生児・小児のケアに関連する 1 分半前後のメッセージを、聴者が多いとされる時間帯 4 回/日に毎日放送した。ラジオ放送局として、郡内でも聴者の多い放送局との契約を結んだ。保健省が作成した CB-IMNCI 関連メッセージの内、住民がメッセージにより耳を傾けやすいよう、特に会話形式のメッセージや歌に合わせた形式の 8 種のメッセージを採用した。メッセージのテーマは、産前検診と施設分娩のすすめ、新生児必須ケア、新生児・小児の危険な症状の見分け方、小児の下痢症や呼吸器感染症の治療法、家庭でのそれらの疾患への対処法等であった。メッセージはネパール語に加え、バンケ郡内で特に話者の多いタルー語とアワディ語に翻訳し、保健省の許可を得て 2019 年 7 月に放送を開始した。 本年度は郡内 20 か所の市庁舎や区役所、警察署、人通りの多い交差点等に、2 種類の啓発バナー（新生児必須ケアと新生児・小児患児が受診すべき危険な症状）を設置した。さらに、8 種類の CB-IMNCI 関連のテーマ（CB-IMNCI サービスについて、予防接種、新生児必須ケア、カンガルーケア、出産前後や新生児・小児患児が受診すべき危険な症状、産後検診、新生児蘇生法等）を取り上げたポスターとパンフレットを計 3500 部印刷し、郡内の公立保健医療施設へ配布した。
(3) 達成された成果	成果 1. 保健医療施設の整備 バンケ郡北東部に位置する、ラプティソナリ村内の 2 か所のヘルスポスト併設分娩関連施設の施設環境が、衛生面および安全面から整えられた。この 2 か所のヘルスポストの修繕は、1751 人の 5 歳未満児人口に裨益する。 また、バンケ郡内の 44 か所のヘルスポストおよび 3 か所のプライマリヘルスケアセンター、1 か所の州病院に、各レベルの新生児・小児保健医療サービスに必要な医療資機材が整備された。よって、1 年次事業終了時には郡内 47 か所の公立保健医療施設に、新生児・小児保健サービスの提供に必要とされる医療資機材が設置された。 これらの適切に整備された施設及び設置された資機材により、患者が適切な処置を受ける環境が整った。 成果 2. 保健サービス提供者の能力向上 計 721 人の保健医療サービス提供者に CB-IMNCI 指導要綱に基づいた研修を実施し、郡内の新生児・小児保健医療サービス向上に繋げ、持続可能な開発目標 3 のターゲット 3.2 および 3.c の達成に貢献した。 2-1, 2-4 a : 保健医療従事者によるインフォームドコンセント 事業実施前には、保健医療従事者は患者へのインフォームドコンセントを実施できていなかった。しかしながら、指導者研修を受講した保健医療従事者らへの電話でのサンプル調査によると、88%の保健医療従事者らが新生児・小児保健医療サービスを提供する際に保護者への必要な情報提供と保護者からの同意を得ていた。 2-2 a, b : 全 FCHV788 名による出産前の戸別訪問回数 保健省は FCHV による妊婦への適切な産前戸別訪問を計 4 回としてお

り、事業実施前後の年間戸別訪問回数は、31,326回（一人のFCHVにつき年間平均40回）から37,746回（一人のFCHVにつき年間平均48回）に増加している。よって、FCHVによる出産前の戸別訪問回数の合計および一人当たりの年間の訪問回数は20.0%の増加が見られており、FCHVがより頻回に戸別訪問を実施したことが示されている。

2-2 a, b: FCHVによる出産後の戸別訪問率

自宅分娩した母親と新生児へは、FCHVによる戸別訪問が最低1回必要とされており、事業実施前後の年度での戸別訪問率は12.0%から5.8%に減少している。実際に、9425件から9563件に施設分娩件数が増加しており、自宅分娩が減少したことを裏付けている。

2-3 a, b: 民間医療従事者15名からの保健施設への紹介率

研修に参加した民間医療従事者15名からの保健施設への紹介率は、昨年1年間は11.0%であったが、2020年1～4月は10.4%となった。バンケ郡では新型コロナウイルス対策のためのロックダウン規制が特に厳しいことや、主な紹介先であるベリ州病院に新型コロナウイルス陽性患者が収容されているために紹介を控える傾向があることが予想される。

成果3. 保健施設の運営・能力向上

持続可能な開発目標3のターゲット3.8達成に貢献するため、人的資源と管理能力を高めるためのワークショップおよび研修を、計326名の保健医療施設運営管理委員会メンバーや州管轄保健事務所と市町村保健部門の監督者、在庫管理者らを対象に実施した。今後、保健施設が継続してより適切に運営されていくようになる。

3-2 a: 保健施設運営委員会により運営計画が策定された施設数

本年度の保健医療施設運営組織の能力向上ワークショップを通し、24の保健医療施設にて運営計画が策定された、ほとんどの保健医療施設にて医薬品の調達状況の改善が確認された。来年次以降に運営計画の実施状況をさらに確認していく。

成果4. 住民の新生児・小児保健知識の向上

CB-IMNCIガイドラインやハンドブック、啓発ポスター、バナー、パンフレットを計5700部印刷し、ラジオを通して新生児・小児保健関連メッセージを毎日4回放送したことで、バンケ郡の住民（総人口501,883人）が適切な家庭での療養行動と受診行動をとれるようになる。

4-1, 4-2: 出産前第一回目健診受診者の割合

保健医療施設での産前健診に1回以上訪れた妊産婦の割合は、事業実施前後では80.6%から80.8%に微増が見られている。今後は、第一回目健診受診割合のさらなる増加と、保健省の定める4回の定期産前健診が適切な妊娠期間に行われるようフォローアップしていく。

4-1, 4-2: 住民のFCHVへの新生児・小児保健に関する相談

FCHVから報告された保健医療サービス提供記録によると、2～59カ月児の急性呼吸器感染症の割合は事業実施前後で36.7%から35.1%に減少し、2～59カ月児の下痢症の割合は40.7%から35.1%に減少した。このように、コミュニティでの新生児・小児の急性呼吸器感染症および下痢症は減少傾向にある。これは啓発教材やラジオ放送、FCHVの地域での保健指導の効果であると考えられる。加えて、下痢症を罹

	患した2～59カ月児が、経口補水液および亜鉛製剤をFCHVから受け取った割合は、事業実施前後で69.8%から95.7%に増加した。
(4) 持続発展性	本事業では、新生児・小児保健環境に関わるインフラ整備と、保健医療施設およびコミュニティにてその保健医療サービスを提供する人材育成を通し、ハード面とソフト面での改善を図った。また、それらの運営管理能力の向上を目指す支援を含んでおり、事業成果を長期にわたって持続できる事業デザインとなっている。 本年度はバンケ郡ラプティソナリ村にある、2か所のヘルスポスト併設の分娩関連施設を修繕し、ラプティソナリ村長からは、予算確保と地元住民との協力によりヘルスポストの維持管理を引き継ぐとの合意を得た。修繕された施設と医療資機材は各市町村に引き渡され、維持管理を担う区と保健医療従事者との監督責任を市町村長が負う。 全国的な保健医療施設間の人事異動を考慮して各種研修日程・参加者を調整したことで、引き続きバンケ郡および周辺地域で従事するとされる保健医療従事者の知識および技術の向上に貢献した。また、バンケ郡にてマスターレベル指導者研修を実施したことにより、今後も同地域でCB-IMNCIに基づいた指導者研修を開催する際に講師を務めることができる人材が育った。 FCHVは地域住民が務めており、担当地域に住み続ける女性たちに支援したことは、新生児・小児保健に関する知識が地域に残ることに繋がる。同様に保健医療施設運営管理委員会メンバーも保健医療従事者と地域住民で構成されており、メンバーが改選されても、自分の子どもたちの健康を維持・向上するために、協力して施設と保健医療サービスの維持管理を続けていくことが期待される。